

めざめ

峠 三吉

散つておた 羊のむれが
おのづから 集るやうに
雨雲は山陰かげによりあひ沈み
いま拭はれぬ 空の深みに
宵星は眼ざめる

一ッ又ひとつ、

そしてまた うら若い母の胸に
まじりとこころ映して
見かときならぬ眼をさます、
空からの 懐き
そらからの 観かんに。